



KANAIWA ONO
ART PROJECT

金石スタジオ 通信

5

金沢21世紀美術館が進めている金石大野芸術計画(Kanaiwa Ono Art Project)。その活動の拠点となっている金石スタジオ(金石松前町1番16号)から、毎月みなさまに、最新情報をお届けするニュースレターです。

AIR アーティスト・ イン・レジデンス

ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ

ムンさんとチョンさんの個展
がはじまりました！

「自治区」のアーティスト・イン・レジデンスに参加してくれたムン・キョンウォンさんとチョン・ジュンホさんは、二〇一九年の冬から春にかけて金石に滞在しました。みなさんにお話を聞く会を開いて、銭屋五兵衛の生涯や北前船での交易といった金石の歴史について学び、いろんな場所を訪れて撮影を行いました。

次に彼らが金石を訪れたのは同じ年の八月。大野湊神社の夏季大祭や本龍寺を撮影し、彼らがデザインしたマンホールをまちなかに設置する計画、防風壁のリノベーションや廃船の劇場化計画な



滞制作の成果を発表する展示室

ど、まちの特性を活かしながらその機能拡張や風景の変容を試みるプランを考えました。今回の展覧会では、金石で過ごしながら考えたことや金石で撮った映像が、彼らの滞在制作の成果として発表されています。

このように金石と縁の深いムンさんとチョンさん。ともに一九六九年に生まれたおふたりは、二〇〇九年にデュオとしての活動を始め、様々な領域の専門家との対話を通じた協働のための実践的な場を

提唱します。鮮烈なデビューを飾ったのは二〇一二年。作品《世界の終わり》は美術界に大きな衝撃を与え、その三年後には、ベニス・ビエンナーレで韓国代表に選ばれるなど、世界各地で展覧会が開かれています。この作品は当館の所蔵作品となり、今回の展覧会でも展示されています。加えて、巨大なLEDパネルに映し出される孤独な生存者の姿が見るものを圧倒する新作《どこにもない場所のこと：エクリプス》や、映像と絵画、写真で構成される、国境沿いの非武装地帯にある村を舞台にした《どこにもない場所のこと：フリーダム・ヴィレッジ》もご覧いただけます。疫病や戦争といった古来より人類を苦しめてきた災いは、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大やウクライナをめぐる苛烈な情勢として、私たちに今なお、強大な脅威を突きつけます。こうした不穏な



金石で撮影された映像作品《Silent Planet》2020-2022

時代だからこそ、韓国に生まれ、国土の分断や制度的な矛盾とともに生きてきた彼らの作品や活動は、今、私たちに多くを語りかけ、よりよい未来について考えるきっかけを与えてくれることでしょう。ムンさんとチョンさん渾身の展覧会をぜひご覧下さい。(中田耕市、金石21世紀美術館 シニア・キュレーター)

★展覧会「ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ：どこにもない場所のこと」

開催中〜9月4日(日)まで10時〜18時(金・土・曜日は20時まで)

場所：金石21世紀美術館

料金や日時指定チケット、休場日など詳細は美術館ホームページ (<https://www.kanazawa21.jp>) をご確認ください。

【滞在エピソード】 梅原頭(本龍寺)

ムン・キョンウォンさんとチョン・ジュンホさんが金石に来られたのは二〇一九年の冬のことでした。その年の前年から始まったプロジェクトは、アーティストが金石に滞在し、地域の方々と交流しながら作品を制作していくというもので、アーティストと関わる事など無い生活をしていた私にとって、とても興味深く楽しみな企画でした。

ムンさん、チョンさんと初めてお会いしたのは、お二人が金石散策中に美術館の方と共にお寺へお寄り頂いたときだったと思います。お二人はとても穏やかで、外国語を一つも話せない私の話に熱心に耳を傾けられ、的外れな質問にも丁寧に答えて下さいました。その後、金石に滞在し作品を制作されていく中で、町の人たちと親交を深めていかれました。

お二人は、金石に対し敬意を持って接し、町の歴史についてもよく勉強されています。また、こういうことは地域の方に失礼はないかなど、色々気遣いもされながら作品を制作されていたことを覚え

ています。
 今回コロナ禍により遅れていた作品が、いよいよ完成されたとお聞きし、とても喜んでおります。お寺にコタツを持ち込んで作品づくりをされていたこと、猛暑の中で祭りの撮影をされたことなどを思い出し、懐かしさを感じつつ、作品を拜見したいと楽しみにしております。

東京理科大学 伊藤香織研究室

5月〜8月滞在予定

昨年度の金石大野芸術計画は、商店街を舞台にした「かないわ楽座」など、「まちへ拡がる」一年間でした。今年はこのまでの活動を金石の皆さんへとつなぐことを目指します。その第一歩として東京理科大学の伊藤香織研究室と共同でレクチャー&ディスカッションを行います。

伊藤研究室は都市の研究をしている研究室で、昨年度は金沢21世紀美術館と共同研究を行い「あなたのまちの使い方・小学生時代と今」という調査を行いました。二月の調査報告会では海岸や街路、公園など金石大野芸術計画でも



2月の意見交換の様子

使用されてきた場所の年代ごとの捉え方の違いなどが話されました。報告が興味深いものであったのはもちろんですが、集まった方々との意見交換会が盛り上がったことが印象的でした。なお、二月の報告は自治区ラジオにて公開予定です。(鋭意準備中！)

この報告会の意見交換会の経験から、街の方々ともちづくりの知見を共有し、話し合う機会を作ることが「つなぐ」ことになるのでは？と考えました。そこで、昨年調査を行った東京理科大学伊藤研究室にレクチャーをお願いしました。

第一回はまちとスタジオがテーマです。まちにアーティストや住民が集まる「場所」ができるか、どんなことが起きるのか？金石にスタジオ

オができたことで何か変化はあっただろうか？ということを考えてみたいと思います。ぜひご参加ください。(森絵里花、金沢21世紀美術館プログラム・コーディネーター)

★レクチャー&ディスカッション 第1回

「マチとハコとコトを考える
 スタジオが街にもたらずもの」

5月29日(日)13時〜15時

場所：金石スタジオ

参加費：無料

定員：25名程度(当日受付)

第2回 7月24日(日)午後予定

第3回 8月28日(日)午後予定

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況等により、予定を変更する場合があります。詳細は美術館ホームページをご覧ください。

週末コタツ

PP
 パブリック・
 プログラム

【実施レポート】

今年の週末コタツは金石スタジオと金石のまち中で行い、普段とは違う方々にもご参加いただきました。本龍寺では金石手芸部と合同で開催、本堂とコタツと手芸の相性が良くいい空間ができました。

た。お母さんは手芸をして一緒に来たお子さんは周りの子供や大人と遊ぶ光景が見られました。かつてはお寺に多くの人が集っていたといいますが、インターネットや車もない時代、対面で多くの人が集えるお寺は人と人が繋がる社交場としての機能があったのかもしれない。身近に社交場があることで情報交換の場ができ、集うことで地域への愛着・団結力が育まれたのではないかと想像が膨らみます。

今回の経験を経て、家でも職場でもない、居場所があったらいいと改めて思うようになりました。週末コタツは今シーズン終了したので、これからは金石スタジオがその居場所になるようにできたらと思います。(河合紗那、金沢21世紀美術館 地域コーディネーター)



本龍寺で行った週末コタツの様子

おしらせ

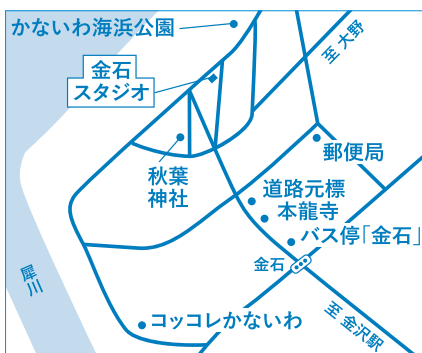
今年度、金石大野芸術計画の担当になった森絵里花と申します。初めましての方も多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いたします。

金石スタジオ

金石松前町1番16号

バス停「金石」から歩いて5分、海岸通り沿いです。公共交通機関や徒歩、自転車などをご利用ください。

スタッフ常駐は、毎週土曜の14時〜17時です。



金石スタジオ
 情報発信中



Instagram



facebook